

# 栢山 尊徳記念館周辺

二宮金次郎(尊徳)生誕の地 栢山  
 尊徳の思想や生き方のもとをつくった自然や体験の場を訪ねながら、水の豊かな川べりをゆっくり歩いてみませんか。



**報徳堀**  
 ほうとくぼり  
 天保11年(1840)尊徳の指導により、水田の地下の冷水を取り除くために掘られた排水溝。湿田が良田に改良され米の収穫が増したため、村人は感謝をこめて「報徳堀」とよんだ。

**松苗植栽地跡**  
 病気の父に代わり酒匂川の堤防普請に出た12歳の金次郎は、子どもで一人前の働きができないとして、夜なべで「わらじ」を作り村人に配って力の不足を補った。また、子守りで稼いだ二百文で200本の売れ残りの松苗を買い、堤防に植えたという。

**捨苗栽培地跡**  
 金次郎17歳のとき、捨てられた苗を集めて酒匂川の氾濫で荒れた土地を耕し1俵の籾を収穫した。それらをもとに、翌年には5俵の米を得ることができた。小を積んで大をなす「積小為大」を体得した。

**善栄寺**  
 曹洞宗の寺で、栢山の二宮家一族の墓がある。尊徳は栃木県日光市の星頭山如来寺に葬られたが、遺齒と遺髪が善栄寺に埋葬されている。

**油菜栽培地跡**  
 夜学のために行灯の油を無駄に使うなど伯父の万兵衛に叱られた金次郎は、一握りの菜種を蒔き、翌年には7升の収穫を得て、これを1升5合の行灯の油に変えて、勉学に励んだといわれている。

**尊徳生家**  
 寛保2年(1741)頃建てられた、江戸時代中期の典型的な中流農家の建物。尊徳記念館に隣接する尊徳誕生地に、昭和35年に移築された。(神奈川県指定重要文化財)

**尊徳記念館**  
 天明7年(1787)に生まれた二宮金次郎(尊徳)にまつわる遺品・資料などを展示し、尊徳の偉業を分かりやすく説明している。金次郎は若くして両親を失ったが、一生懸命働きながら勉学に励み、やがて関東を中心として、各地の農村や諸藩の財政建て直しに力を尽くした。  
 開館 [展示室]9:00~17:00(入館16:30まで)  
 休館 年末年始  
 入場料 一般200円、小・中学生100円

